

中央発條陸上競技部

2023年度版 社会貢献活動報告書

(2023.4.1-2024.3.31)

目次				
項目	ページ	対象	題目	狙い
①	P.2～4	成人	視覚障がいランナーのサポート活動の継続	<ul style="list-style-type: none">・ランニングの多様性・視覚障がいランナーの認知と理解
②	P.5	—	田原市西の浜クリーンアップ活動	<ul style="list-style-type: none">・清掃活動・環境美化
③	P.6～P.7	中学 高校 大学	チーム合宿・練習でのジュニア選手との交流	<ul style="list-style-type: none">・青少年ランナーの競技向上と普及・実業団の魅力を伝える
④	P.8～P.9	小学	大高北小学校 陸上教室	<ul style="list-style-type: none">・体力測定に向けた対策講座・地域の子供たちと親睦を深める・学校との連携
⑤	P.10～P.12	小学	新豊洲Brillia ランニングイベント	<ul style="list-style-type: none">・スポーツの多様性を学ぶ・パラスポーツの認知と体験・健康に楽しく走るコツの伝授
⑥	P.13～P.14	小学 中学	飛鳥スポーツフェスティバル	<ul style="list-style-type: none">・自分の得意を見つける機会の提供・将来の夢と希望につながる体験

中央発條陸上競技部

2023年度版 社会貢献活動報告書

(2023.4.1-2024.3.31)

記入者：原嶋溪

①

視覚障がいランナーのサポート活動の継続	実施日/期間 2021年～
<p style="text-align: right;">*交通費実費や社会通念上妥当な菓子折り等の謝礼の受領は「無償」に分類してください。</p> <p>■活動内容</p> <ol style="list-style-type: none">1) ブラインドランナー 和田選手（長瀬産業所属）のサポートを2022年に引き続き、継続。練習や大会でのガイドを実施。また和田選手の記録更新をアシストするために試合等で専属ペースメーカーも行った。2) 伴走者の育成。サポートする人材を増やした。3) SNS等を利用して、和田選手との活動やブラインドランナーに関する情報を発信。 <p>■狙いや取り組みに対する思い</p> <p>企業スポーツとして「勝った・負けた」だけではなく、もっと社会に対して私たちにしかできない使命があるはず。その理念の下、ブラインドランナーのサポートを2021年より開始しました。</p> <p>私たち、実業団選手がブラインドランナーの伴走や実業団での練習ノウハウを共有することで、ブラインドの選手の競技力向上、そしてブラインド競技会全体のレベルアップに繋がります。和田選手はここ2年で、マラソン世界記録を3度も更新するなど歴史に残る記録を打ち立てました。また弊社陸上部に加え、SUBARU陸上部さんも2021年から同様な活動をされており、2023年7月に開催された「パリ2023世界パラ陸上」では5000mで見事、金メダルを獲得する活躍がありました。ここ数年、確実にブラインド選手の競技力が向上し、記録と結果が出ていることで、以前よりもブラインドランナーの認知も向上しています。今後、その他の実業団選手やトップランナーも伴走に手を挙げてくれるようになれば、より一層ブラインドマラソンの認知が高まります。そうなる事で、パラスポーツがもっと身近になり、パラスポーツとの垣根が低くなることが期待できます。視覚障がいに対する理解にも繋がります。</p> <p>また認知が進んでいる一方で課題もあります。国際大会に出場するようなブラインドランナーは一握りで、殆どのブラインドランナーはランニング愛好家です。さらに伴走者の高齢化・減少が進んでおり、ガイドを必要とするランナーの走れる機会が減少している状況が実態です。私たちの活動をきっかけに、少しでも多くの人たちが伴走に興味を持ち、伴走をしてくれる人が増えて欲しい。ランニングの楽しさをもっと多くの人に知ってもらいたい、分かち合える社会になって欲しい。障がいがあるから走れないのではなく、障害があってもみんなとランニングを一緒に楽しめる環境を作りたいと思っています。</p>	

視覚障がいの方が競技大会に参加する場合、障がいの程度が成績に影響しないように、障がいの程度に分かれる「クラス分け」がなされる。

クラス	区分	主なブラインド選手（成績）	
T11	ガイド必須視力 0.0025未満	和田伸也選手(長瀬産業)	東京パラ1500m2位、5000m3位 マラソン世界記録保持者 2時間23分27秒
		唐澤剣也選手(SUBARU)	東京パラ 5000m 2位 パリ2023世界陸上 5000m 1位
T12	ガイドと走るか単独で走るか選択できる 視力0.0025から0.0032まで、または視野直径10度未満	堀越信司選手(NTT西日本)	東京パラ マラソン3位

■主な実施内容

分類	NO.	日付	内容	対応者	備考	
大会	2021年度実施					
	1	8/27	東京パラリンピック T11 5000m 3位 15分21秒03	矢嶋		
	2	8/31	東京パラリンピック T11 1500m 2位 4分05秒27	矢嶋	アジア新記録	
	3	9/6	東京パラリンピック T11,T12混合 マラソン 9位 2時間33分05秒	矢嶋	パラリンピック記録(T11) ハーフ通過世界記録公認(T11)	
	4	2/6	別府大分毎日マラソン(日本視覚障がい男子マラソン) T11,T12混合 マラソン 1位 2時間26分18秒	矢嶋 佐藤	世界新記録(当時)	
	2022年度実施					
	5	8/28	北海道マラソン 視覚障がい者男子 マラソン 1位 2時間29分50秒	矢嶋	大会新記録	
	6	11/23	第9回京都陸協記録会 男子5000m 3組 7着 15分00秒31	山本	自己新記録 (山本はペースメーカーとしてサポート)	
	7	2/26	大阪マラソン2023 日本陸連登録の部 男子 106位 2時間24分29秒	矢嶋 山本	世界新記録(当時) (山本はペースメーカーとしてサポート)	
	2023年度実施					
	8	5/21	第65回東日本実業団陸上競技選手権大会 男子視覚障がい5000m 2位 15分24分04秒	原嶋	原嶋は初伴走	
9	9/3	第2回 NAGESEカップ 男子1500m 1組 4分09秒84	浅岡 佐藤	浅岡はペースメーカーとしてサポート		
10	11/11	第8回京都陸協記録会 男子5000m 6組 27着 15分10秒75	穴澤 山本	穴澤初伴走 (山本はペースメーカーとしてサポート)		
11	2/4	別府大分毎日マラソン(日本視覚障がい男子マラソン) T11,T12混合 マラソン 1位 2時間23分27秒	山本	世界新記録 (山本はペースメーカーとしてサポート)		
練習	12	4/1	練習に派遣	山本	所在	大阪
	13	4/19	練習に派遣	原嶋・山本・佐藤		大阪
	14	5/23~5/28	チーム合宿に参加(合同トレーニング)	全員		御岳(岐阜)
	15	11/5	チーム練習に参加(合同トレーニング)	全員		名古屋
	16	11/18	チーム練習に参加(合同トレーニング)	全員		名古屋
	17	11/22	練習に派遣	原嶋・山本・佐藤		西京極(京都)
	18	12/16	練習に派遣	穴澤		大阪
	19	1/20~1/21	パラ連盟合宿に派遣	穴澤		富津(千葉)
その他	18	3/14	講演会(社内対象)	全員	所在	名古屋

<活動の具体的内容>

NO8 第65回東日本実業団陸上競技選手権大会

NO10 第8回京都陸協記録会

昨年までは、ガイドとしての出走は矢嶋のみ。
今年は原嶋、新加入の穴澤も伴走に挑戦した。
伴走者の増員により、サポートの幅が広がった。



NO11 別府大分毎日マラソン

今大会は記録への挑戦のため、ペースメーカーとして山本がサポート。

自身が持つマラソン世界記録 2時間24分29分（2023大阪マラソンにて 伴走：矢嶋）を大幅に更新する2時間23分27秒でゴール。ここ2年で自己記録を3分近く更新している和田選手。ブラインドランナーのレベルが向上していることを実感するとともに、今後のブラインド競技会のさらなる発展に向けてガイドのみならず記録更新のためのサポートを続けていきたい。



▲ 2023大阪マラソンの様子 矢嶋・山本



▲ 別大マラソンの様子 ゴール手前

NO14 チーム合宿に参加（合同トレーニング）

今年度も引き続き、弊社陸上部の強化合宿に和田選手が参加。
部分的なトレーニングに参加したり、選手たちと意見交換を行う。
生活面でのサポートも実施。

また、ブラインドマラソンの認知向上や視覚障がいに対する理解を深めるべく活動内容をSNSで発信。

今回は7月に控えるパリ世界陸上に向けた強化合宿の位置づけ。
世界と戦うための準備や心構えなど練習と生活を共にする中で、
緊張感や刺激をもらい多くのことを学ぶ機会となった。



▲ SNSを利用して活動を発信



▲ 朝練習 合同走の様子



▲ チームのポイント練習に参加

②

活動名 田原市西の浜クリーンアップ活動	実施日/期間 2023年7月17日
------------------------	----------------------

*交通費実費や社会通念上妥当な菓子折り等の謝礼の受領は「無償」に分類してください。

■活動内容

環境ボランティアサークル「亀の子隊」主催による田原市の海岸のごみ拾いや海をきれいにするための啓発活動に参加

■狙いや取り組みに対する思い

この活動は「田原市渥美町の西の浜をきれいにする活動を通して三河湾、伊勢湾、ひいては世界の海をきれいにしようとする心を広げる」ことを目的とされており、そうした地域の方々の思いに対して、少しでも力になれないかということで、昨年に引き続き「亀の子隊」の活動に参加させていただきました。

また今回活動した清掃場所である田原市は中部北陸実業団駅伝の開催地でもあり、地域の方や子どもたちと清掃をする中で、地域とチームの交流が生まれ、選手たちやチームを認知してもらい、さらに応援してもらう良い機会にもなりました。

選手たち自身も現場で実際に清掃する中で、環境について考えるきっかけになったり、応援してくれる方々がいることを改めて直接感じることで、競技に対する見つめ直すきっかけともなり、競技意欲向上にも繋がりました。

■活動の様子

各選手分かれて海岸に落ちているごみを拾う。今回の活動全体で約200kgのごみを回収



▲ 活動前の説明 意気込む選手たち



▲ 佐藤監督の挨拶

今年も暑さの厳しい中、大量のごみを回収することができました。

③

活動名 チーム合宿・練習でのジュニア選手との交流	実施日/期間
<p>■活動内容</p> <p>昨年に引き続き、中学、高校、大学のジュニア選手たちをチームの合宿や練習に招き、選手たちと一緒にトレーニングを実施。練習後、合宿中には意見交換などを行う。競技力を高めるためのアドバイスや選手の経験談などを伝えることでカテゴリーの垣根を超えた交流を深めた。</p> <p>■狙いや取り組みに対する3つの思い</p> <p>1) ジュニア世代の競技力アップの手助け</p> <p>これからの陸上界を担うジュニア世代の選手たちが、実業団選手と同じ練習を実際に実際に一緒に行くことで、その経験を自信にしてもらい、よりレベルの高い競技意識を持つきっかけにしてほしいという思いがあります。</p> <p>そして、そこで得た知識や肌で感じたことを所属するチームに持ち帰り、他のジュニア選手たちにも還元することができれば、ジュニア世代全体の競技力向上に貢献できると考えています。</p> <p>また中学生、高校生の中には、練習パートナーがいない、ポイント練習ができる場所がないといった競技環境が厳しい選手たちも多いです。中には全国レベルの選手もいるなか、ジュニアの年齢では自分で環境を整えることは非常に難しいです。</p> <p>そういう状況下の選手たちが少しでも良い練習環境でトレーニングできる場を提供することでさらなる力を引き出しすきっかけになればという思いがあります。</p> <p>2) 実業団選手の魅力を伝える</p> <p>近年では、ジュニア世代の憧れや夢が「ニューイヤー駅伝」ではなく「箱根駅伝」で活躍したいという選手が多く見受けられます。</p> <p>そのような中で、力のある大学生の中でも、目標が箱根駅伝だったから大学で競技を終えるといった燃え尽きの選手が多くなっていると思います。</p> <p>陸上界をさらに盛り上げていくために、大学、実業団とレベルアップしてほしい。</p> <p>そこで、中学生や高校生のうちから、実業団選手と交流を持つことで、競技力だけでなく、将来の競技ビジョンとして、大学が過程になるのではなかとを考えます。</p> <p>大学駅伝と比べると実業団のメディア露出は少なく、知られていない部分も多くあると思います。</p> <p>こういった交流を通して、実業団に興味をもってもらえるよう、実業団選手の魅力も一緒に伝えていきたいです。</p> <p>3) 地域から応援される、地域を盛り上げるチームへ</p> <p>この活動を通して、ジュニア世代だけでなく、そのご両親や学校の方々といった周囲の人たちにもチームのことを認知してもらい、地元の方々から応援されるチームにしていきたいと考えています。</p> <p>今後の陸上界、実業団をさらに盛り上げていくために、走りで感動を与えるだけでなく、地域との交流を交えて、より地域の方々に身近な存在となって、地域を盛り上げられるようにしていきたいと思います。</p>	

■主な実施内容

分類	NO.	日付	内容	場所	所感
高校生	1	7/25	ポイント練習 12000m + 300m 5本 3'20 52" 参加者：愛知高校(3名) 豊田大谷(3名)	刈谷	力に合わせて行う距離を設定 声を掛け合いながら練習することができた
高校生	2	7/28	ポイント練習 16km + 1k 3本 3'40 3'00 参加者：豊田大谷(2名)	名古屋	普段はできない長距離走を果敢にチャレンジした。
高校/大学	3	7/31~8/9	チーム合宿に参加 7/31~8/2 高校生1名(豊田大谷) 8/3~8/9 大学生2名(愛知工業大)	御嶽	実業団選手の力を借りながら、すべてのメニューをこなした。今までやったことのない練習もやり切ることができた
大学生	4	1/16	ポイント練習 5k 3本 ベース：3'00 集団について、5k 2本と3kを行う	弥富	自己ベストと同等のタイムで練習ができた チャレンジしたことで成功体験となった

■活動の様子

NO1 12000m 練習中の様子



- ◀ 7月の暑さの厳しい中、
集団で実業団選手に食らいつく。
2つの高校からの参加ともあって
高校生同士の競い合いもあった。
その中で、集中した練習を行うことが
できた。

NO3 チーム合宿 ポイント練習の様子①



- ▲ 紫、白のウェアの2名の選手(愛知工業大)

ポイント練習の様子②



- ▲ 積極的に先頭に出て練習を引っ張った

NO4 チーム練習 5kの様子



- ◀ この日は強風の悪コンディション。
積極的に集団について、練習を
こなすことができた。
普段はできない質の高い練習を
行うことができ、自信になった。

④	活動名 大高北小学校 陸上教室	実施日/期間 2023年5月8日
---	--------------------	---------------------

■活動内容

体力テストに向けた走り方のレクチャー。短距離、長距離パートの2部構成。
一緒に身体を動かしながら50m走、シャトルランで少しでも早く(長く)走れるコツを伝授した。

■狙いや取り組みに対する思い

小学生にとって、年間行事の1つである「体力テスト」。走ることが得意な子はさらなる好記録を目指して。苦手な子は少しでも記録を伸ばせるように。今回の走りのレクチャーを受けて体力テストで過去の自分を超越する体験をしてほしい。その経験から走ることの楽しさ、やりがいを感じ、ランニングの魅力を知ってほしい。**自分たちが走ることで走る魅力を伝えるだけでなく、実際に一緒に身体を動かし、走る楽しさや魅力を伝えることも私たち実業団選手の役目だと思っています。**

■主な実施内容

- 参加メンバー 【選手】 矢嶋、米田、サイモン 【スタッフ】 佐藤監督

●スケジュール

時間	所要時間	内容
13:35 - 13:40	05:00	挨拶及び選手紹介
13:40 - 13:45	05:00	コーディネーショントレーニング (アイズブレイク)
13:45 - 13:48	03:00	グループ分け及び移動 ・ 2グループに分ける (5年生、6年生) 5年生：短距離パート→長距離パート 6年生：長距離パート→短距離パート
13:48 - 14:08	20:00	■短距離パート ・ スタートのコツ ・ 力の生み出し方 ・ 接地 ■長距離パート ・ 正しい腕振り ・ シャトルランのコツ ・ ラストスパートのかけ方
14:08 - 14:15	07:00	【通常】選手と勝負 (200m) ・ マラソンの男女世界記録、日本記録ペースで選手が先導。生徒は挑む。 ・ 順番 5年生 → 6年生
14:15 - 14:20	05:00	質疑応答・挨拶

■活動の様子



▲ パートごとに走るコツを教える（短距離）
サイモン選手も見本となって行いました



▲ 小学生でも分かりやすいよう
笑顔で丁寧に教える米田選手（長距離）



▲ インプットからアウトプットへ
学んだコツで実際に走ってみる小学生たち

⑤

活動名 新豊洲Brillia ランニングイベント	実施日/期間 2023年7月16日 / 2023年4月～企画・準備
-----------------------------	-----------------------------------

■活動内容

「ずっとびりだったけど、ちょっと速くなった」をテーマにした、長瀬産業主催のランニングクリニックに企画段階から参加し、当日はゲストとして参加。7月下旬の炎天下での開催のため、暑さ対策のレクチャーから開始した。主に走るための機能向上を狙ったランニングスキルのトレーニングと運動における認知能力を向上させるコーディネーション・トレーニングを実施。東京パラリレーメダリストで名古屋学院大学AC所属の現役パラアスリートである大島健吾選手にもお声がけし、参加して頂いた。そこで実際に義足の体験も行った。

■狙いや取り組みに対する3つの思い

1) 暑さの厳しい夏を安全に、健康に過ごすため

年々、暑さが厳しくなる夏季。実業団チームも様々な工夫をしながら、走り込みを行います。選手は高地や避暑地へ行って、より安全な場所で身体を動かすことができる一方で普通の人たちは普段の生活環境で過ごさなければなりません。小学生は夏休みになり、大人の目が届かないところで遊ぶ機会も多くなります。自己管理能力や暑さ対策への知識、注意力が乏しいため、熱中症になったり、体調不良になるお子さんも多くなってきています。こうした機会を利用して、普段から行っている水分補給や体温調節のやり方、熱中症対策に有効なグッズの紹介など、私たちからもレクチャーすることで暑い夏でもより安全に、より楽しく身体を動かしてほしいという思いで実施しました。

2) 走ることの魅力を伝える

各プログラムに緊張をほぐす空気づくりとして、クイズやじゃんけんをトレーニングの前に取り入れました。運動が苦手な子もスムーズにトレーニングを行えるような工夫、選手と一緒に楽しめるような環境づくりで、より小学生が前のめりな取り組みになるよう心がけました。またコーディネーショントレーニングとして、走力とは直接関係ないものの、運動の上で判断に欠かせない認知能力のトレーニングを楽しみながら敢行できるメニューも実施しました。ただ走るでなく、頭と身体を使ってトレーニングに夢中になる。時間を忘れて熱中する。身体を動かす楽しさを子供たちに伝えることができた取り組みになったと思います。さらにプログラムの最後として、選手とかけっこ対決を実施しました。アスリートの速さを実際に体感し、いつもと違う体験をしてほしいという思いで行いました。子供たちはその速さに別次元とあきらめず、何度も何度もチャレンジする姿もあり、普段はできない選手との競走の中で、走る魅力を感じてくれているという実感もありました。

3) スポーツの多様性を学んでほしい

今回のランニングクリニックには義足のパラアスリートである大島選手も参加しました。本人から義足についての説明に加え、中央発條の選手とのレースも披露。アスリート同士の対決に盛り上がる中、こうした取り組みをきっかけに、パラ競技を認知してもらうことや義足ランナーの速さを伝えることができました。障がいを抱えた人たちへの理解を深め一緒にランニングを楽しめるような環境に繋げていきたい。まだ垣根のある私達の世代が当事者意識を持ち、多様性のある社会づくりを子供たちと共に作り上げていきたいと思ひます。

■主な実施内容

実施プログラム	
① 暑さ対策レクチャー	
内容	備考
1) 水分補給 (吉岡) ・レースで気を付けていること ・尿比重測定によるコンディション 2) 脱水症状予防策 (原嶋Mg) ・準備物アイテムを使い説明 →霧吹き、アイスラリー	(目的) 自分たちでできるようにレクチャー ・トーク形式で実施 ・テーマを振るかたちで進行
② コーディネーショントレーニング	
内容	備考
1) アイスブレイク 後だし足じゃんけん 練習：手 本番：足	(目的)判断力、跳躍力 ・ルール説明を実施後、全体に対して行う ・大きくジャンプさせる
2) カラーリング (ジャンプ) 練習 標準 (跳び方指定なし) Lv1 マーカー追加 1個 Lv2 マーカー追加 2個 Lv3 色指定	(目的) 判断力、接地時の支持 ・はじめに選手が手本を見せる ・参加者に実施させる ・レベル別に3列作る (クリアできたら次のレベルに) 全体の習熟でレベルをあげる。
3) ラダー (ステップ) 1. ゆっくり 2. 速く	(目的) 俊敏性 ・はじめに選手が手本を見せる ・参加者に実施させる ・とにかく速く動かす
③ ランニングスキルトレーニング	
内容	備考
1) アイスブレイク 1. クイズ「走る歩きの違い」 2. 走るときのポイント (橋本)	(目的)走動作の理解 ・クイズでは、動かして考えさせる ・走るときのポイントを選手が伝える「ポジション」「パワー」「速さ」 →次のスキップ動作のキーワード
2) スキップ動作 1. ノーマル 2. 上に大きく 3. 前に大きく 4. 速く細かく 5. 遠くに 6. ギャロップ	(目的) 走動作の基本習得 ・各種目1往復 ・1回目の試技は説明。修正ポイントを伝え、 2回目を実施 ・スキップの種類で時間調整
④ 選手のパフォーマンス体感	
内容	備考
1) ウォーミングアップの仕方 ・ランニングドリル (町田) ・パラ選手のドリル (事前打合せ) 2) パラ選手とのレース ・中央発條 (米田・矢嶋)	・休憩時間の間にスタート、ゴールをセット (マーカーセット) ・パラ選手とのレースの際はゴール地点に参加者を誘導
選手と競争(50m)※コースは全長60m 1) パラ選手VSこども 2) 中央発條選手(日本人)VSこども 3) 中央発條選手(ケニア)VSこども	・6レーン (選手2名、こども4名) ・全参加者が参加 ・組分けは受付時に実施 ・対戦カードは順不同

■活動の様子



▲ ①暑さ対策 講義
実体験や自身の取り組みを伝える吉岡選手



▲ ②コーディネーショントレーニング
子供たちと一緒に楽しみながら行った



▲ ③スキルトレーニング
選手が後ろからバックアップ c



▲ パラアスリートの大島選手
貴重な義足体験をする子供たち



▲ ④選手のパフォーマンス体感 その1
競技者のスピードを見せる選手たち



▲ ④選手のパフォーマンス体感 その2
選手たちに勝負する緊張感も

⑥

活動名 飛鳥スポーツフェスティバル	実施日/期間 2024年3月17日 / 2016～継続
----------------------	-----------------------------

■活動内容

飛鳥村で実施されるスポーツフェスティバルのイベントを企画、当日はゲストとして参加。
午前中に陸上競技に触れる「陸上チャレンジャーズゲームズ」
午後には様々なスポーツに触れる「アスリート交流会」の2つのイベントを同日実施。
チャレンジゲームズでは、陸上測定会として5種目の競技を行う（短距離走・ハードル走・立ち幅跳び・ボール投げ・持久走）。アスリート交流会では、卓球・バスケットボールの元トップ選手を招き、参加者（小・中学生）と一緒に様々なスポーツに触れる（卓球・リレーバスケットボール）。我々が専門種目ではないスポーツも実施種目に組み込む。

■狙いや取り組みに対する2つの思い

1) 自分の得意や可能性を見つける

陸上競技は「走る」だけでなく、「跳ぶ・投げる」といった様々な種目がある。私たちは「長い距離を走る」ことが得意だと実感する機会を経験し、その種目に自分の可能性を見出しました。子供たちの可能性は無限大です。こうした陸上測定会や様々なスポーツに触れるレクリエーションをきっかけに自分の得意を知り、もっと陸上競技やそれ以外のスポーツも好きになってもらいたい。私たちの使命はこういった機会を、未来を担う子供たちに提供し、自分たちの可能性を見つける手助けをすることだと思います。私たちがスポーツで活躍する夢を描いたように、子供たちが少しでも自分たちの得意を見つけ、未来に夢を持ってもらえるような機会にしたいです。

2) スポーツの楽しさの体感と将来の夢へつながる体験

アスリート交流会では、トップアスリートのパフォーマンスを目の前で見て、その凄さを肌で感じてもらうとともに、選手たちと一緒に競技を行うことで、スポーツの楽しさにも触れてもらう体験の場を作りました。また異種目のスポーツを組み合わせることで、それぞれのスポーツの面白さ、楽しさを実感するだけでなく、**別種目になれば「スポーツ選手にも出来ない一面」にも触れる機会も与えることができます。そこでスポーツに取り組むことへの可能性を体感してもらい、将来の夢や希望を持ってもらいたいと思っています。**

スポーツ選手として、憧れる・目標にされることで、子供たちに将来の夢を持ってもらうだけでなく、プロでもできないことがあるなら、自分たちも可能性があるのではという希望を持ってもらうこともできるのではないかと。かっこいいところだけでなく、かっこ悪いところも見せる機会を作ることがよりスポーツ選手の価値を高める活動になると思っています。

■活動の様子（2022年度 実施時の様子）



▲ ①測定 立ち幅跳び
跳び方のアドバイスを
する様子



▲ ①測定 準備体操
動きづくりの見本を
みせる様子



▲ ②アスリート交流会
卓球対決の様子。専門種目では
ないスポーツでは互角の戦いに